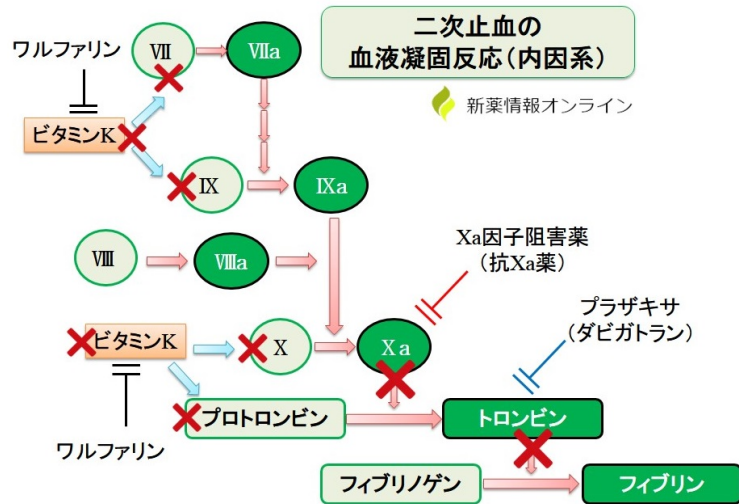


ワーファリンと直接経口抗凝固薬は凝固系をブロックする作用部位が異なります。

ワーファリンは、ビタミンKをブロックすることで間接的に凝固系をブロックします。

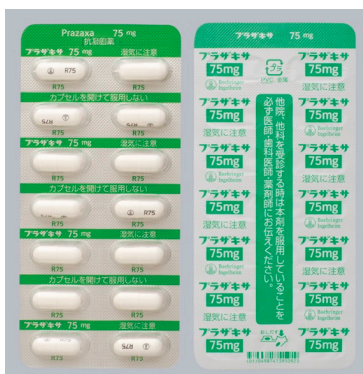
「新薬情報オンライン」というサイトから抜粋しました。



心臓血管外科★健康講座

抗凝固薬には、現在、二つの種類の薬剤があり、一つはワーファリン、もう一つは直接経口抗凝固薬（DOAC）と総称される薬剤です。全く別の薬なので注意が必要です。

岩手県立中央病院心臓血管外科では、身近な医療の情報を解説した健康講座を県民の皆さんに提供します。第6号は直接経口抗凝固薬（DOAC）です。



DOACには、2020年現在、4種類の薬があります。商品名でプラザキサ、イグザレルト、エリキュース、リクシアナという名前です。凝固因子の中の第Xa因子を阻害するイグザレルト、エリキュース、リクシアナ、トロンビンを阻害するプラザキサという違いがあり、それぞれに副作用や投与に注意すべき病態が異なりますので、注意が必要です。



イグザレルト、リクシアナ、エリキュースが処方される病態としては、「非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制」「深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症の治療及び再発抑制」です。プラザキサは、「非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制」だけが適応となります。



人工弁の患者さんの抗凝固薬は必ずワーファリンです。PT-INRという凝固系の検査で、投与量を調整する必要があります。人工弁が固まったり、血栓がついたりすることを防止する作用を期待してのDOAC使用はできません。また、ワーファリンを内服している患者さんは納豆が食べられません。



一方、DOACを内服している患者さんは、納豆が食べられます。ビタミンKとは関係ない作用機序だからです。量の調整のための採血は不要です。また、ワーファリンは薬価が安いですが、DOACは薬価が高いです。

このように、ワーファリンとDOACは、その適応となる疾患、病態が異なり、納豆との関係、採血の必要性も違う、全く別の薬です。自分が内服している抗凝固薬について、なぜ飲んでいるのかなど、確認しておきましょう。

岩手県立中央病院心臓血管外科

健康講座 第5号